

平成15年10月17日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

第12回ペスタロッチー教育賞表彰式について

このことについて、別紙のとおり送信いたしますので、取材をお願いします。
なお、今回の授賞者は下記の方です。

記

受賞者 [学校法人 九里学園 学園長 九里 茂三](#)

【お問い合わせ先】

広島大学大学院教育学研究科教授 坂越

TEL:(0824)24-6731

広島大学教育学部庶務係

TEL:(0824)24-6707

[発信枚数;A4版 6枚(本票含む)]

- [表彰式プログラム](#)
- [表彰式・講演会案内](#)
- [ペスタロッチー教育賞とは?](#)

ペスタロッチー教育賞受賞者紹介

学校法人 九里学園 学園長 九里茂三氏

九里茂三氏は、1921年山形県米沢市に生まれ、東京高等師範学校を卒業、海軍兵学校教官として終戦を迎えた。1945年から米沢興穰館中学校(現・高等学校)教諭として勤務し、1956年学校法人九里学園理事長に就任、1961年米沢興穰館高等学校教諭の職を辞し、九里学園米沢女子高等学校(現・九里学園高等学校)校長となった。1979年に九里幼稚園を創立、園長となり、1982年には九里学園教育研究所を設立、1990年からは学校法人九里学園学園長として活躍されている。その間、山形県私立高等学校協会会長、日本私立中学高等学校連合会副会長等の要職を歴任されてきた。

九里氏の業績の第一は、その半世紀以上にわたる学校教師としての実践活動にある。戦後の混乱の中で国語を担当し、ガリ版刷り教材を使って情熱的に生徒たちに語りかけた青年教師時代から、校長を務めながらクラス授業を担当し生徒の一人ひとりを温かいまなざしで見守っていた近年まで、その真摯な教育実践活動は、上杉鷹山、細井平州の伝統を受け継ぐ米沢教育の成果として、高く評価されている。

九里氏の業績の第二は、私学教育・経営に関するものである。氏は養母、九里とみ氏が1901年女性の自律めざして創立した九里裁縫女学校を引き継ぎ、その精神を発展させるとともに、「礼一人間の尊厳を重んじその高貴にふさわしく行為しよう」並びに「譲一自らの持てる力を発揮して愛する世の人々に捧げよう」を理念とした私学教育を行ってきた。氏は、自らの出発点を「徹底して私学的であること」とし、自由な発想のもとに考うる最善の教育内容とその体制を樹立し、生徒一人ひとりを大切にすること、さらにそこに一瞬の停滞も許されないことを訴えつづけてきた。このような氏の姿勢は、九里学園の独自の教育プログラム、芸術やスポーツ、生徒たちの自主活動を中心にした優れた教育実践として展開されている。

また関連して、国際交流や地域社会文化の発展についても、氏は顕著な教育文化的功績を挙げている。私学のあり方をめぐる国際的な研究活動としては、歴史的に著名なドイツの田園教育舎ショーンドルフ校やアメリカの姉妹校セントジョーンズベリー校との交流が例示されよう。さらに九里学園教育研究所は、教育研究施設、地域に開かれた小劇場としての役割とともに、1982年以来機関誌『あづまね』を刊行し、教育課題の研究や啓発、地域文化芸術の発掘・紹介、さらにコミュニティ活動発信の場として高く評価されている。

九里茂三氏は、ペスタロッチーがそうであったように、自らの教育理念を自らの学園において実践し、学園の教育と経営に粉骨砕身してきた。九里氏の活動は、戦後から現在にいたるまで一貫しており、教育への情熱と子どもたちへの愛情に基づいた真摯な実践が、いま豊かな実りを結び、確かな成果をあげている。ここにはまさにペスタロッチーの精神と「教育の原点」が示されていると言えよう。九里茂三氏の長年にわたる多大な功績に対し、第12回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。

第12回ペスタロッチー教育賞表彰式

日時 平成15年11月10日(月)13:00~14:30
場所 広島大学教育学部K201講義室
東広島市鏡山一丁目1番1号

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長
広島大学長 牟田 泰三
広島大学大学院教育学研究科長 中原 忠男
- 3 祝辞
(財)広島地域社会研究センター理事長 篠原 康次郎
- 4 ペスタロッチー教育賞贈呈
受賞者 学校法人 九里学園 学園長 九里 茂三
- 5 記念品贈呈
中国新聞社代表取締役社長 今中 亘
- 6 記念講演
受賞者 学校法人 九里学園 学園長 九里 茂三
- 7 閉会の辞

第12回ペスタロッチー教育賞表彰式・記念講演会

受賞者 学校法人 九里学園 学園長 九里茂三
日時 平成15年11月10日(月)13:00～
13:00～13:30 表彰式
13:30～14:30 記念講演
学校法人 九里学園学園長
九里茂三

場所 広島大学教育学部K201講義室
東広島市鏡山一丁目1番1号

主催 広島大学大学院教育学研究科
ペスタロッチー教育賞実行委員会

後援 (財)広島地域社会研究センター
中国新聞社

(問合せ先)

広島大学大学院教育学研究科 ダイヤルイン(0824)24-6731(坂越)
広島大学教育学部事務室 ダイヤルイン(0824)24-6707(庶務係)

ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー

JOHANN HEINRICH PESTALOZZI

スイスの教育家・教育思想家。1746年、チューリッヒに生まれる。チューリッヒの大学に学び、そこでルソーその他の革新的な啓蒙思想に触れ、政治の改革を求める学生組織「愛国者団」に入る。その後、農業を志し、アンナ・シュルテスと結婚、農業経営のかたわら、貧児・孤児の教育事業に着手する。1781年、教育小説『リーンハルトとゲルトルート』を發表し、絶讃を博す。シュタンツでの孤児救済の活動を経て、1800年ブルクドルフ、1804年、イヴェルドンに学園を開く。『メーデの精神と心情』『ゲルトルート教育法』など、多くの著書を刊行する。学園は、多くの国々から参観の人々が集まり、教育実践研究のセンターとなって、ヨーロッパ、アメリカにペスタロッチー運動が広がる。1825年、弟子たちの内紛から、学園を閉鎖してノイホーフに退き、1827年、ブルックにおいて没す。82歳。

ペスタロッチー墓碑銘

ハインリヒ・ペスタロッチーここに眠る。
 1746年1月12日チューリッヒに生れ、1827年2月17日ブルックに没す。
 ノイホーフにおいては貧しき者の救助者。
 「リーンハルトとゲルトルート」の中では人民に説き教えし人。
 シュタンツにおいては孤児の父。
 ブルクドルフとミュンヒエンブーフゼーにおいては国民学校の創設者。
 イヴェルドンにおいては人類の教育者。
 人間！ 基督者！ 市民！
 すべてを他人のためにし、
 己には何物も。
 恵みあれ彼が名に！

ペスタロッチーとペスタロッチー教育賞

広島大学大学院教育学研究科は、財団法人広島地域社会研究センターならびに中国新聞社の後援を受け、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践をおこなっている個人あるいは団体を顕彰するため、先のペスタロッチー賞の精神を継承し、ここにペスタロッチー教育賞を創設した。その趣意として、以下のことが挙げられる。

教育の荒廃が叫ばれる中、優れた教育を地道に実践し、「真教育」の原点を示している実践家ならびに団体を顕彰にすることは、これらの人々を勇気づけると共に、その活動を社会に広め、活性化させるために、極めて重要なことである。この賞は、混迷する教育の現実に対して、教育の原点を示し、我が国教育の立ち直りのきっかけにしようとするものである。その象徴としてペスタロッチーの名が称えられよう。ペスタロッチーは民衆教育の父であり、教育の実践家として、子どもへの限らない愛情と慈しみを身をもって示した教育者であった。同時に、多くの困難を克服しておこなわれた教育実践から編み出された教育思想・教育理論は、単に18、19世紀の

所産としてではなく、常に「真教育」の象徴となり、今日に至るまで世界の教育を動かし、教育の原点を示すものと考えられている。とりわけ、本研究科には、大正10年以來の、ペスタロッチー研究および運動に関する長い伝統があることも忘れてはならない。

ペスタロッチーの実践・思想・理論には、今日の教育荒廃を克服するための方途を示す力があると確信される。ペスタロッチーの精神を教育の原点として捉え、優れた教育を実践している人々を顕彰することは、正に今日の教育にとって「地の塩」となろう。

<付記>

第1回受賞者	宮城 まり子	ねむの木養護学校校長
第2回受賞者	谷 昌 恒	北海道家庭学校校長
第3回受賞者	児 玉 三 夫	明星学苑理事長、明星大学校、明星小学校長
第4回受賞者	山 田 洋 次	映画監督
第5回受賞者	NHK名古屋放送局「中学生日記」製作スタッフ	
第6回受賞者	本 吉 修 二	学校法人白根開善学校校長
第7回受賞者	黒 柳 徹 子	ユニセフ親善大使
第8回受賞者	社会福祉法人	広島新生学園
第9回受賞者	丸 木 政 臣	和光学園学園長
第10回受賞者	佐 野 浅 夫	俳優
第11回受賞者	社会福祉法人	似島学園